玉埼生更

5507

創刊號

書庫

玉埼縣農村更生協會

K610
J

昭和十二年度

我家の日記

經濟更生は記帳から

經濟更生を圖るには自分の力を知り自分の經濟を識る事が最も肝要であるがそれには先づ日記が第一だと思ひます。

「經濟更生は記帳から」と云ふてもよい位日記は大切である。斯様な要求に應へて出來た「我家の日記」は形式も良く且つ付けよいしその上値段も安いので農家から大歡迎をうけて居ります。

昭和十二年にも一層御利用を願ひ度一段と印刷を吟味して左の値段で實費頒布を致しますから御希望の方は各郡市農會の方へドシ〳〵御申込を願ひます。

十錢

誰にもつけ易く安い日記

一部拾錢

—目次—

發刊の言葉……一
經濟更生と報德道……二
皆さんに讀まれたい『更生埼玉』……七
經濟更生協會の眞使命に就て……八
更生運動の精神內容としての敎化に就て……一〇
極樂（永久の繁榮）への近道……一六
小麥の奬勵と統制販賣の重要性……一八
更生運動は産業組合の擴充强化から……二〇
書座講座……二三
指定村を訪ねて（北足立郡）……二四
雜錄……二六
經濟更生町村幹部協議會
農村更生協會（趣旨、規程、役職員）
農民講堂を建設した日勝村
編輯後記……二九
投稿歡迎……三〇

發刊の言葉

小誌「更生埼玉」は埼玉縣農村更生協會の機關誌として生れました。更生運動が愈々本筋に乘つて參らうとする今日各更生町村は益々結束を固くし聯絡を密にして行かねばならぬ關係上本誌はその一つの役割を受持つ理であります。

× × ×

小誌「更生埼玉」は各更生町村の動勢を反映する鏡でありお互に採長補短をなすべき資材となり又融和親睦を圖るべき舞臺となりこゝに本誌の使命を見出さうとするのであります。

× × ×

小誌「更生埼玉」は頁數も少く貧弱な体裁でありますが內容は出來る限り洗練して皆樣のお役に立てたいと念願して居ります。

× × ×

以上の樣な使命を以て生れました此の小誌も大方の御同情と御鞭撻とに俟たなければ完全に成長して行く事が困難かと思はれます。切に御支援を冀ふ次第であります。

經濟更生と報德道

遠山信一郎

地方行政の權威者として今猶敬慕せられて居る故井上博士が、内務省地方局の府縣課長たりし時に、地方自治の振興は精神方面から入つて行く可きであつて、徒らに非を擧げて攻撃するに止るが如きことでは到底行政監督の實を擧げ得ない。宜しく模範的事例に依る實物教育によつて指導啓發して行く可きで、この實物教育の模範的のものは、二宮尊德先生の報德の原理と其の實績でありとなし、報德道を普及し以て自治の振興を圖らんとして、中央報德會の設立の事實上の計劃實行の任に當られたのである。

當時内務省には平田大臣の下に一木次官、床次地方局長、中川市町村課長等何れも報德道に深い熱心な人々が居られ報德道普及の中心となられたのであつた。今日中央地方の實情を顧みて、其の見識と努力とに深く敬意を表する次第である。不肖誠に識見に乏しく、而も斯の如き事を論ずる身ではないが、十數年地方行政に從事し、殊に所謂非常時に遭遇して國民更生の重大問題に逢着してより一層其の感を深うするは、國民精神の更生振興を離れて經濟産業の眞の發展は到底望み得べからざる事であり、而してこの精神と物質の兩者を更生振興せしむるに最も有効適切なるは報德道である事である。

道德と經濟の調和

國家の政治は申す迄もなく、地方行政の要は國民生活の安定を以て第一とするにある。國民生活の安定を期するには其の方針多樣であるが、結局道德と經濟即ち物質と精神の兩者の調和でなければならない。然るに國民が經濟に偏し物質を求めて精神を輕んずるは誠に大なる誤であり、諸弊こゝにきざし、日本をして非常時艱の窮地に陷れたのも蓋し精神を輕んじ物質に偏重した結果であると言ふも過言でない。幸い近年精神を重んず可き事が漸く了解され、一時憂慮に堪へざりし尊皇敬神崇祖の念は近時頓に昂揚され、思想も又次第に安定し來りたるも、多年營利主義、利己主義を指導精神として今日に至りたる事とて、物質に偏重するの弊今に改まらざるは遺憾である、元々日本精神は道德經濟一元にあり、而してこの日本精神はけだし報德道を以て最善となすのである。

報德道は天皇を中心に道德經濟一元を以て敎理となし、日本精神について前人未踏の精髓を明にし、而もこれを實行に現はしたるものである。されば、これを宣揚する事によつて道德經濟の調和を招來し、國民生活の安定を期する事が出來るのである。

一圓融合

現今各方面に於て特に感ずるは、あらゆる点に於て部分的であり、對立的であつて連絡と統一が缺けて居る事である行政廳自體に於ても多數の部課に分れ、其の間の連絡調和を缺く事が多い。行政機構の改善の聲もこゝに起る所以であ

る。然して連絡調和は機構の問題よりむしろ各自の一圓融合の精神問題である。獨り行政廳のみでなく、地方には個人と個人、團體と團體の對立あり、産業組合の發達につれて反産運動益々猛烈となり、此の悲しむ可き對立抗爭の爲に平和は亂されつゝあるのである。

蓋し社會の進歩につれて分化の程度も增加し、各種異りたる團體部門等の生ずるは止むを得ざるも、之を連絡統制し一圓相の內に圓滿に結合し一體となすにあらずんば、眞の進化でなく徒らに混亂紛爭をしげからしむるのである。此の部分をよく纏め一體となし、一圓融合せしむるものは報德道の特に秀でた所である。

地方行政と指導精神

非常時局の幕が切つて落されてより、之が打解の爲日本精神の宣揚が盛んに唱へられて來たことは當然のことである。杉浦先生が　畏くも東宮殿下に御進講申し上げた一節に「支那には孔子の敎があるのに之を實行しない爲に支那は憐れむべき國となり、歐洲にはキリスト敎があるのに之を實行せざるが故に歐洲大戰を惹き起した。」この一節よりして我國を非常時局に陷れたのは、日本精神を忘れ之を實行しなかつた爲であると申したいのである。而して日本精神、日本精神と抽象的に叫んだり、又は人々によつて各種各樣に說いて居つたのでは、農村問題、中小商工業者の問題を始め一時期の根本的打開は容易でない、眞の日本精神はこれであると云ふ指導精神を明示して天下に臨むが最も重要である。前述の如く各方面が部分的の連絡なく對立の烈しきは、各方面が以て共に指針とするに足る普遍的深遠廣大なる指導精神がはつきりして居らぬからである。之を一地方に見るに敎育は敎育、敎化は敎化と云ふ樣に獨自の考を以て進み、産業は産業、自治は自治と各種各樣の指導精神を以て進んで居る。（中には何等の指導精神すら有しない其日暮しのものもある）。試みに一町村內の産業團體に關して之れをみるに農事實行組合あり、養鷄組合あり、何々組合あり、それ〳〵思ひ思ひの存在をなして居る。斯樣な有樣で其の間に連絡統一が缺けて居ては一町村の圓滿なる發展は望めないのである。故に大切な事は敎育敎化も自治も産業も何れも共に以て據る事の出來る高い大きい深い、而も廣い指導精神を握らば、これ等は皆一体となつて個人も團體も心を揃へ力を協せて進む事が出來、こゝに經濟は振興し醇風美俗は起り、部分の弊も對立の抗爭もなく、一處一村の實を擧げる事が出來るのである。

永遠の指導精神

同じ町村にあつても、地方廳にあつても、町村長が變り、幹部が交代ある毎に指導精神が變り、各々好む處に從つて思ひ〳〵の有樣では、町村が長く榮えんとするも無理であり、地方行政の刷新も改善も困難である。模範村として世に知られしものが模範村たるの實を失ひ、往々にして紛糾村となる事例尠からず、模範村は短命なりとの言葉さへ生ずるに至つた。鳥村は永遠であり、子孫は永久である以上、模範村は長く模範村でなければならない。模範村として表彰された後から崩れて模範村は短命なりとの嘆きは何によるかと申せば、要するに久遠の指導精神がなく、中心人物が我流を以つて町村を率ゐる爲である。即ち有力なる中心人物の努力に依つて模範村となるも、町村には或は政黨關係あり、或は種々の感情や勢力がある故、一度中心人物が中心より去れば、之等の感情や勢力が擡頭して前者を相續せず、新にその人の我流を以て指針を改むる爲である。されば町村の久遠の發展繁榮を圖らんとせば、我流を棄てゝ後の人が相續の出來る永遠性のある指導精神によらねばならない。已れを忘れて我流に非ざる自己色なき立派な指導精神ならば、後

人もよく之を相續する事が出來、町村民も之等を知得し實行する事が出來るので、町村民皆同じ精神となり、一致して之を子孫に傳へ得るのである。大切なるは久遠の指導精神である。而してこの町村の指導精神をよく町村に徹底せしめ之を永遠に相續せしむるには、府縣に於ても同樣に一定の指導精神を以て全縣的に之が普及實行に力めねばならない。範圍の廣狹はあるとも其の理は同じである、斯くすれば各町村は縣一圓の精神と空氣の中に育てられ、互に助け合ひ長短補成し、指導精神はよゝ行き亘り永く相續せられるのである。今日統制の重要なるは獨り產業や金融のみではない。

指導精神の統一こそ難時ではあるが最も大切な事である。而してこの指導精神たり得るものは報德道を以て最も普遍的永遠的であると信ずるものである。

富山縣が昭和九年の大水害の慘禍にも屈せず、よく希望に輝き復興に努力し、豫想外の好成績を以て復興しつゝある は報德道を以て水害復興の指導精神としたるに負ふ所大なりとの由を、昨年時の知事が畏くも陛下に奏上せられたのである。唯に水害の復興のみならず、縣風次第に揚り、產業に、教育に、大なる躍進をなしつゝあるは、報德道を縣一圓の指導精神とし極力之が宣揚に努めたるに因る所多いのである。

即ち富山縣に於ては非常時を打開し、縣全面的の振興を圖る爲に、報德道を縣全體の指導精神と定め、一大旗旆を掲げて縣民に臨み、別に富山縣振興報德社を創設し、官民協力してあらゆる方面に之が普及徹底を圖つたのである。かくて敎育も敎化も產業も自治も、個人も、團體も皆一の指導精神を以て指針として非常時の打開に努めたのである されば横にも縱にも異色なく、部分と全體の對立もなく、一の方面に足並を揃へて進むに至つたのである。但しかゝる大仕掛の思ひ切つたやり方が縣民に了解され共鳴を得、効果を擧げる迄には幾多の障害に遭ふたるは勿論である。（未完）

皆さんに讀まれたい

更生埼玉

更生係　U生

燈臺もと暗しと云ふ言葉があるが、ほんとうに自分の足もと程見にくいものはない。自分の凡てを知りぬいてゐる人がある なら、それこそ全く偉い人である。自分のからだを知り、自分の心を知りぬくことは、誠にむづかしい事だが又非常に大事なことゝ思ふ。

世の中が忙しくなればなるほど、自分の仕事に專念するために、どうかすると、自分を顧みず、また家のことなど、考へたりする暇さへ見出せぬことがある 又自分の仕事のことや町村內の出來ごとなどを、新聞で始めて見たり、よその町村で聞いたりして、驚くことさへ珍しくないのは、全くうその樣な事實である。

こゝに月刊「更生埼玉」は生れた。申す迄もなく單に抽象的な事柄を羅列するのが目的ではない。

どこ迄も、更生の埼玉として、今や更生途上に躍進する、農山村の眞劍な姿をそのまゝ寫した、眞に更生の友でありたいと願ふ。

月刊「更生埼玉」により、縣內更生農山村の眞面目な姿を識ることに依て、お互ひに自奮自勵の心を喚起すると共に我家を愛し、鄉土を愛する心が潮の如く押しよせて來るこゝと思ふ。そうして其の心が一點に集中された力こそ、眞に更生の原動力となり、その力は、農山村の樂土建設に、やがて其の反響となり、その閃きとなり、その波となつて、必ず其の實現を期することができると思ふ。

この意味から「更生埼玉」は多數の皆樣に讀れたい。そうして皆樣の眞の叫を歡迎する。經費こそ貧弱で、形こそ小さいけれど、お互ひの機關誌として、農村へ出る如何なる雜誌にも追隨を許さない特色を持たものと致したい。どうか長く姿婆に御緣がある樣にお願ひする。

おことわりしたい事は、月々の「更生埼玉」の姿は、農山村の樣々な場面が寫されることゝ思ふ、今迄氣づかなかつた近所の良い事例を初めて知つたり、又自分の村が、はつきり寫されたりすることもある。そうして、この寫された、樣々な姿を眺めてお互ひに其の現狀を充分に知り、農山村の向上發展の爲め協力邁進したいと念願する。

經濟更生協會の眞使命に就て

縣農會　高井二郎

經濟更生運動を促進する爲に今回本縣に更生協會の設立を見、機關誌として「更生埼玉」が月刊せらるゝ運びになつたことは、農山村經濟更生運動の重要性に鑑み洵に慶賀に堪えぬ次第である。

抑々世界大戰後に起つた經濟恐慌に依つて眞先に最も深刻な打撃を受けたものは我農山村である。之が匡救の恒久策の一つとして農山漁村經濟更生計畫樹立奬勵が國策として採用せられ、五ケ年計畫として具体化し昭和七年以來實施せられて五ケ年を經過した。即ち本年は恰もその第一期計畫滿了の年に當つてゐるのである。

この間計畫を樹立し、之を實行に移してゐる町村は既に百五十二に達し豫定以上の實蹟を示し相當更生の實を擧げつゝある村も出る樣になつてゐるのは、本運動の効果を示すものと言ひ得る。然し本運動をして有終美を就さしむるには今後一層の研究と努力とが必要なのも之又事實である。

然らば何にを以てか經濟更生運動を福助型とは云ふ。それは農村不況打開の爲官民一致の名に於て生れたのが本年五歳の更生太郎であつた筈なのに、官の奬勵、企畫、待望の大なるに比べて民の理解、計畫、實行の貧弱なることよ、例へて福助型と云ふ。最も實感ではないが、凡て動物は生れる時頭部が手足に比べて非常に大きい。

更に母胎内では全く頭足均衡の取れぬ怪物である。するとこの福助型は生れ出るものゝ通性であらうが更生太郎も生れた時に頭が大き過ぎたからとて直ちに之を不具兒とするは當らぬ。然し生れて五年もして頭の重みに立つて歩けぬとすれば、これは變だとするのが常識であらう果して然らば手足を太らせることが今後に於ける本運動の眼目でなければなるまい。

何をか手足を太らせると言ふや、それは町村の幹部許りでなく或は又部落の幹部のみにでなく、町村の出來るだけ多くの人々に本運動を正確に理解させることなのである。

元來經濟更生運動とは町村内農家の經濟活動を有機体化することである。個々の間に同一神經系統の神經を通じ之を隣保相助の精神の支配の下に置き依つて次で個々の活動を活潑にし個々の内容を立派にすることである。

由來社會の團體構成に關して個別の爲の全体か、全体の爲の個別かゞ問題となつてゐるのであるが二者共に當を得てゐぬ。個別と全体が有機体的關係にあるのが最も貴いとする、言ふ迄もなく有機体にては個々の細胞が何れも潑剌としてゐる時が健康体なのである。然し各細胞は決して個別な存在ではない。

町村の經濟更生運動も之に例することが出來る。即ち農家各戸に盛な生氣があり、努力があつてその經營なり、生活なりを合理化することが基本であるが、各戸は個々都合上からの勝手を愼しみ共同の目標に一致するのがそれである。

各戸がその農業經營や、日常生活を改善する爲に共同機關の援助に依頼し之を利用するは多々益々よいがそれだけで更生の目的を達し得るものではない。畢竟各自の決心工夫努力が基本である。故に共同機關を利用することそのことを直ちに經濟更生とすることは出來ず助成機關の强力化を直ちに經濟更生運動の本質であるとするが如きは、本運動を理解せぬ我田の見である。

一例を以て示せば産業組合は農村の經濟改善運動としては是非强化しなければならぬものであり。之を利用することは農家の利益でもあり又義務であるが農家にして自己の經營なり、生活なりを合理化する一定の方針を立てその實現を期する爲に利用するのでなければ、何程かの利益が得られたと言ふ程度に終りそんなことでは底のない桶に水が溜るものではない。然るに桶の洩りを止めることゝ、水を汲みこむことゝを混同してゐるのが指導者の間にすらある一般民衆の理解が貧弱のは當然とも言ひ得る。

これを是正するのが本協會の使命でもあり補助更生太郎の手足を太らす所以でもある。そして機關雜誌を發行し講演會、協議會を催し、更生運動の尖兵を養成し或は時機を見計つて大々的宣傳運動を起す等はその目的を達成する方途の數例であらう。

昭和十年度の本會通常總會に對する知事の諮問「農山村經濟更生運動ヲ全縣農家ニ意識徹底セシムル方策如何」に對する答申「農家組合並ニ其他ノ農村小組合ヲ基調トシテ埼玉縣農山村經濟更生協會ヲ結成シ報德振興會ト提携シテ民間經濟更生運動ヲ恒久化スルコト」の一項がある。

今回その結成なり華々しき歩みを踏み出したのは洵に幸慶である。必ずや今後目覺しき活動をなし本縣經濟更生運動に資する所大なるものあるべきを信ずる囑望を厚くし所懷を述べて前途に餞ける次第である。

更生運動の精神内容として の教化に就て

社會課　安藤專哲

一、麥飯の味

先年大阪で東洋オリンピック競技が行はれた時の事であつた。

比律賓や支那の選手もこれに加はつて割當られた大阪市の宿舍に這入つてゐたが、そこで麥飯を供せられた。選ばれて出場した日本選手も同じくこれも饗せられ喜んでこれを喰つた。比律賓の選手もまた同じく喜んでこれを賞味した。そして我も人もその食膳について言つた語は「うまい」といふ一語に盡きてゐた。けれど翻つて思ふにその歸結は同じく「うまい」の一語に一致はしてゐるがその内容について精査するとき、そこには相當の相違があることを發見する。東都の學生は白い米の飯に慣れての麥飯の「うまさ」であり比律賓のそれは未だ白飯の味を知らぬ麥飯の「うまさ」である。「うまい」の一語に於ては相互一致はしてゐても、そのこれに至るの心的狀態に於ては、その隔りや正に千里の遠きものがあると謂はねばならぬ。

二、物か？　心か？

われらの慾望はその限局するところを知らない。がこれを大別して見ると、自己保存の慾望と種族保存の慾望とに歸する。一は物慾であり、他は愛慾である。そして複雜な人生生活の全貌はこの二個の慾望を中心の渦として描ける全面的な波紋に過ぎない。こは明らかに物と心とは對立であり、その相交錯するところに社會の實相は潜めるものなのである。物か？　心か？　その孰れを主とするかについての考察は少くも現時の如き物に飢えたる不況時代に於て眞摯なる討究を必要とするものだと思ふ。

飢ゆる時代に要求せらるゝものは明らかにそれは「物」だ「物」なくして吾人は生を貪り得るものではない。說者の意をも勘へないで、かうした場合、得意氣に「衣食足つて禮節を知る」の語を籍りたり「恒産なきものは恒心なし」の語を引いてパンの重要さを強調する人が多い。われらも勿論この說に對して好んで反駁を加へやうとするものではない。たとひ名僧知識の說敎でも堪へきれぬ空腹を抱えては、到底これに耳を傾けることはできない。かゝる場合は萬機普益の敎說と雖、よく一握の飯にすら及び難いものなのだ。

しかし、かゝる理由でもつて、直ちに世の中は「物だ」「物に限る」と斷ずることには到底われらは與し難い。暖衣飽食の徒、必ずしも幸福であるとは云ひ得ないし千萬金の長者が自らの「心」に相樂しむものだとはなし難いまた之に反して、一簞の食一瓢の飮をもつて克く、自から樂しんだ哲人もある。「物」に飢えた哲人が、何が故に「心」に樂しんだのか、それは心に徹して「物」を眺めてゐるからであり、「物」外の「心」に道を樂しんでゐるからである。

「物」を眺める眼は等しい。さりながらそのこゝに至る道程に千里の隔りがある。「物」は尊い。しかし「心」から出た「物」の見方と「物」それ自体から眺めた見方とは同じく「物」を見てゐながらその尊さに非常な違ひがあるのだ。恰度それは麥飯の「うまさ」の違ひのやうに。

三、君子は財を吝む

われらは「物」のために「物」を愛してはならぬ。「心」に徹して「物」に及ばねば眞に「物」の眞價を把握し得たものではないのだ。「物」それ自身が尊いのではない。「心」が物に滿ちてこそ「物」は尊いのである。一粒の米にも一滴の水にも無限の大悲が溢れてゐるといふ、思念の充ちてゐるところに、眞の價値を認め得るものなのだ。

南天竺の哲人、龍樹は者施を說いてゐる。「物」施ぢやない。者は「心」を表はしてゐるのだ。本顯寺の蓮如は廊下に落ちてゐた紙片を押いたゞき皺を伸して「佛物」だとて叮重に手筐にこれを納めた。禪家の大德が一杓の手洗水を心なく捨てることを戒めて草木に與へしめたといふことは、陣中乃木將軍が水を大切にして無駄な使用を禁じたといふ物語と好一對である。いづれも「心」に出發して「物」を觀る點に於て異曲同巧である。これらは紙片や水滴といふ「物」を見ないで「心」に徹して「物」を觀てゐるのだ。かうした事柄は單純な「物」にのみ膠柱してゐる輩にとつては到底味到し得ない醍醐味と謂ねばならぬ。「衣食足りて禮節を知る」等と悟つたが振りで「物」が第一だと主張する輩も眞にそれは儒道の眞を捉んだものとは謂へない。その樂しみを道に求め得て「物」に飢えたる哲人が泊々然たるを觀ては蓋し解し得ない所だと思ふに違ひない。「君子は財を吝む。これを用ふるに道あればなり」の語は北嶺の開拓者傳敎が言つた「道心に衣食あり衣食に道心なし」の語とともに、儒佛二敎の冥合一致する妙境だと斷ずるに何んの躊躇も要らない。

四、勿体ないー思想

老人はよく物を粗末にする態度を戒めて「勿体ない」と言ふ。とても尊い語であり尊い思想だと思ふ。そして同時にこれらの思想や語から漸次現代の人々が遠ざかつて行く事を慨かはしく思ふ。「お米を粗末にすると眼がつぶれる」「米粒の中には菩薩がおゐでになる」「菩薩樣を粗末にしてはならぬ」

父祖の口からわれらは常に聞かされたのである。「お米を粗末にして勿体ない」「最後に盡きるぞ」とは常套的な古老の敎訓であつた。われら今にして思へば、これ全く父老の信念であつて、かれ自ら深くこれを信じてゐて些の疑念をも挾んではゐなかつたのである。こゝに至れば全く「物」「心」如であつて「心」で「物」を眺めた點に於て古聖賢哲の敎とその軌を一にするものである。これこそ眞に東洋道德の粹であつて物質偏重の歐人の遠く追隨を許さぬ精神文化の特長でもあるのだ。

唯物的な思想と唯理的な思想とは相聯んで進んで來る。そしてかうした情味の溢れた思想は現代から失はれつゝある。慥かに現代人の生活は荒んでゐる。そこにうるみがない。情味の掬すべきものに缺けてゐる。恰かもそれは秋の枯葉の野路をかき分けてゆく樣に、これに觸るゝにやはらかさがない。カサコソと音のする樣な心地がする。

朝顏に釣瓶とられて貰ひ水

はその代表的なもので

踏めば惜し踏までは行かん方もなし

心盡しの山櫻花

は大和民族の通有性であると見てよい。

棚ゆいて外にうつさん藤の花

かゝれる松はいたく老いたり

鞭うたば紅葉の枝にふれぬべし

駒をひかへむ岡越の道

明治大帝の大御心には實に神佛のこゝろが充ち溢れてゐらせられることを知つて感佩に堪えない。むくつけき武人の白髮を漆黑に染めて戰場に臨んだ昔語りや、艇に白梅の花をかざし、兜に名香を薰じて戰の庭に出で立つたことなど孰れ劣らぬ大和男子の優にやさしい物語りも、今は單に昔を偲ぶ語り草となり終ることは洵に悲しい事柄ではないか。とかく古の人には現代人に求め難い心のふくらみがあつた事は事實だ。

近時はそれに引き換えて利己的で、唯物的で、而もなほ學問的な立場から小理窟を並べて心の豐かさを缺いてゐることは明らかに世人の心附かない大きな時弊だと斷じなければならぬ。敎育敎化に關係するものゝ見逃してはならない點であり。爲政者にも考へて貰はねばならぬ所である。

吾人は須らく「心」に徹して「物」に飢えたる現代を匡救せねばならない。

五、更生運動は「心から」

「物」のみを眺めてゐては「物」の眞價は判るものではない「心」から出發して「物」を見るとき眞の價値を捉みうるものであることは繰り返しこれを述べた。更生運動の精神內容はこれを詮じ詰めて見れば「物」の眞價を確實に把握する事

なのだ。

「物」は尊い。金は欲しい。これには誰しも異議を挟むものはない。しかしその尊さには各個別々の個人差がある。金が欲しいのは價値を知つての事である。

そして、その價値には各人見る處が違ふのだ。而してその眞を把握したものが「物」を得てこそ國家の用をなすものなのである。

「心」に發して「物」を見る人は「物」のために物を吝む事を敢てせぬが、物に立脚して「物」を見る人はどうしても「物」に拘泥して必すやその結果を誤るものなのである。須らく財を吝むものは之を用ふるの道（心）を識つてゐるものでなくてはならぬ筈である。もし然らずんばそは兒童幼孩に利劍を弄せしむるに等しい。從つて「心」に出發せざる人はその資格を缺いてゐるとも見るべきものである。

自力更生運動の精神内容は將にその喪はれたる思想の奪還であり先づ其恢復を念とすべき運動なのではあるまいか啓沃して自奮自勵の行動に出でしむべきもので、諸他の方策はこの上に於てこそ初めて重大なる意義を見出し得るものであることをわれらは高調せんとするものである。

「物」に飢えたる現今農村更生の唱へらるゝことは一見「物」の豊饒を念願する運動の様にも見え、世人の多くはこの見解を持してゐる向が多い様だ。無理からぬ事ではあるがわれらは首肯し得ない。「物」の豊饒のみが國家を安泰に導くものではない。日清日露の大戰は偉大なる精神力によつて大捷を博したので、「物」の點に於ては、敵は我に數倍し、數十倍してゐた。

更生運動は一見物の運動の様に見えて實は「心」の運動なのだ「心」の盛られた「物」の充實を希念する運動に外ならないことを高調力説せねばならぬ。

國を危くするものは「心」の飢餓であつて「物」の飢餓ではことはない古今東西の蹤續に見て明らかな事實である。

六、偉なる哉おかげの生活

田舍の弟から都にある兄へ宛てゝの音信が小學讀本に載せられてゐる。曰く

「田植」がすんだので、昨夜は手傳ひの人達を呼んでごちそうをしました。その時おとうさんが、にいさんと「世の中は何でも一生けんめいに働く者が勝だ。米が出來るのも麥がとれるのも、土といふありがたいものが、めいめいの骨折に對して御ほうびを下さるのだ」云々と書かれてゐる。讀みゆくうち思はず膝を敲いて「この考だ」と叫ばざるを得なかつた。

そしてこの一家には「今年ほど水の都合のよかつた事はない」とおとうさんが喜び「あの降り續いた雨のおかげで山田の高い處まで一息に植ゑることが出來た」と弟もおかげを喜んでゐる。

おかげとは神佛のたすけ、冥助の意味で、人間にはその力の根元をそれと窺ひ知ることは出來ぬが、その知り得ぬ神祕境から、偉大なる力をもつてする助けがあるとするところに「おかげ」の語があるのだ。そしてこれこそ物と心との一致せる極點でもあるのである。

徳川時代までの、わが國民思想生活は、將に「おかげ様で」の恩寵生活であり「勿体ない」の感謝生活であつた。そして此の思想こそ相互相助けあつて、われらの思想生活を淨化し且つ豊富潤澤ならしめた。そして「勿体ない」の反省は「おかげ様で」とよろこぶ恩寵を自覺して、そこから自然に湧き出づる眞の肺腑からなる眞實の聲なのである。

「おかげ」を喜ぶ者には自戒があり必らず修省が伴ふもので單なる愚直者の戯言であり、安價なる思想から逃り出るものではないのである。

敎化の根底はスベシと命ずる法律によつて培はれるものでもなければセネ、バナラヌと訓ふる道徳的立場よりするのが理想でもない。

そこには命令もなく、指圖もなく、拘束もなく、窮屈さもない、眞に法爾自然に、而も任運に、さうなる世界であるところのおかげを喜ぶ。「勿体ない」の思想生活であると思ふ。

敎化の標準は單に法律に背反せぬからとてその行爲を讃えるものでなければ、世の道徳善をもつて既上至尊のものとなすべきものでもない。將に宗敎的至高善をこそ目標とすべきもので神明の照鑒によつて醜惡なる自己を正するところに最上の標的を置くべきものであるが、一度びこの絶對境に立つてのち法律を省み道徳を眺めて其處に眞の自己を見出さなくては眞個のものは把握せられたとは云ひ難いのであると信ずる。

「人を對手とせず、天を對手とせよ」と常に訓へた大西郷の言は遺聞の消息に徹した。特に千古不磨の至言ではないか。

編輯子から督促を受けたが多忙裡に何ともなしがたく除儀なく平素の信念を叙して其の責を塞ぐ事とする乞ふ諒恕せられんことを

極樂（永久の繁榮）への近道

學務課　中原英壽

誰しも欲する所は樂に儲けたい骨折をせずに得をしたいと言ふ事であらう。一儲けして愈々繁昌して嬉しい滿足の極樂の境涯に達したいとあせつてゐるが、さて極樂に行く近道はどこにあるであらうか。

他人のものを奪ひ取つて引きよせて、義理を缺いて人情を沒却して、自分を中心にかきあつめたら最も極樂に達する近道らしい、他人はどんなに不便でも、困つても亡びても自分さへ便利で都合よければよい樣に思はれる。自分は樂をして人には骨折をさせる、萬事は他人に仕事をさせて自分はうまい汁を吸ふ事が得の樣である。

他人の利益は自分の損、自分が利を得んためには他人を押し倒さねばならぬ樣に考へる。自他利害相反して、對立すると考へる。

自分は他人よりすべてが勝れてゐると考へる憍慢の會が心の奥底にあるからすべて他人のする事が氣に入らない。自己のみを中心とする社會を考へるから思ふ樣にならぬ事が常である。他人周圍は一切自分の敵といふ考へであるから、不安この上もない。

自己を擁護する事が何を措いても第一であると考へてゐる。

金もとりたい、地位も得たい、名譽も欲しい、權勢を得て威張りたい、ぼろい儲けをしては享樂したい、すべてを己中心に獲得したい、世智辛い世の中、人の社會から以上のものを奪ひ取るのだから、種々のてだてが工夫される、社會に行はれる忌まはしい惡業はその工夫の所産である。巧妙を極めた惡の橫行は此處に根ざしてゐる。世は鬪爭であり欺瞞と化する。弱いものはうだつの上らぬ強者文明となれば、さながら生ける地獄の出現と化する、望んでゐる

極樂に達せんとして求めあせつた結果は、とんでもない、いやな地獄の中に生活せねばならぬ事になる。自己を本位としすべてを奪つて己のみ立たんとする現代人の考へ方で進行すると、全く求めんとする反對のものを握らねばならぬといふ結論に到達する。あせればあせる程このゆき方では行詰りを生じ衰退せざるを得ない。

然らば求めんとする極樂はどこに近道があるであらうか己さへよければよいと考へて、あせつて進んだら極樂ではなかつた。極樂即ち永久の繁榮發展はどこにあるか己のために自己を中心として考へた地獄行の反對の考へ方でなければ到底極樂には達せられぬ。

自分本位でなくて己を他に献ぐる心から出發した時に極樂道に行く事が出來るとは意外ではないか、自分の便利都合のよい樣にと考へた行き方を反對にして自分の便利を得るまへにつとめ果すといふ道が極樂の近道であつたのである。

他人に仕事をさせて己は、らくをする事が永久の繁榮即極樂かと思ふけれども決してそうではない、自分自らが骨折苦勞を重ねて働く處に極樂行の道が拓けるのであつた。

自他利害は相衝突して對立するものと考へてゐるけれどもそれでは眞の繁榮を期する事は出來ない。己の利は他人の利であり、他人の損は己の損であるといふ樣に彼我一体觀で進まねば繁昌しない。

商人がわるい品物を高くうりつけて儲けるのは商人が裕福になるに從つて買手はだんだん疲弊するであらう。それではこの商人は周の買手が滅亡するによつて永久の繁榮は求められぬ。出來るだけよい品物を安く賣る工夫をして買手を裕福にして置くのは澤山のお金をあづけておく樣なもので、これこそ

「ちう〳〵と敷き苦しむ聲きけば
　鼠の地獄　猫の極樂」

といふ樣な考へ方は永久繁昌の策ではない。

己はえらいと思ひ込んでゐる中はすべてが思ふ樣にならず氣に入らぬ樣になるけれども反對に謙虚なる自己となればすべてが「有りがたい」といふ樣になる。そうなつて來ると周圍の人が自分と一如一体になつてほんとうに安心立命が得られる樣になる。

恩に感じて恩に報ゆる氣持になるとすべてを己に獲得するといふ心が一變して奉仕の心となり、働くの眞義を悟つて喜んで働ける樣になり仕事の莊嚴さを覺り他人を尊重

して倶に共にたのしむといふ境涯に到達する。この共生の理を悟れば、和合の妙境を現出する。和とは喜びを與へんとするものゝ集まりの謂であつて眞に同胞の親しみを感じあつて暮す事が出來るのである。これが何人もが求めてやまざる永久の繁榮極樂の天地である。よく〳〵研究して極樂に達する近道を發見したいものである。

二宮先生の報德の眞義はこの永久繁榮の鐵則を示されたものであり讓つて損なく奪つて益なしと喝破せられたる名言がよくわかる事と思ふ。

小麥の奬勵と統制販賣の重要性

農務課　何木重治

小麥作奬勵は昭和七年の增殖計畫實施以來極めて順調に進み、生産高に於ては略ぼ內地需要に接近の狀態である。

昨年度の實績は既に作付面積六十四萬町歩、生産高九百六十五萬石を數へ內地需要一千一百萬石と見る時は裕に九〇%の生産に達して居る。本縣に於ても之が成績は頗る良好で過去三ケ年の實績は作付面積七千町歩增産高二十三萬石に達し、奬勵以前に比較すれば增加歩合は實に作付面積三割一分生産高六割六分を示して居る。

尙之が全國に對する栽培の地位は作付反別第八位生産高第三位反當收量第一位に當り極めて優秀の地位にあるかを窺はれる。

本年の收穫高は勿論今後の天候にも關係あるが今冬來の寒雪害は相當作柄に影響せるので反當收量の減收は免れずとするも昨年來の麥價の好況に刺戟されて作付反別の若干が增加するらしい傾向も見えるので結局前年に比し大した減收はないと思はれる。

蓋し今日小麥の奬勵も以上の成績を收めたる以上今後の奬勵に付ては勿論將來濠洲其他の移入關係を考慮し輸出小麥粉生産原料の生産計畫を樹てざる限り積極的なる生産奬勵に付ては一應差し控へ現狀、即ち內地消費を目標としたる程度の生産計畫に止めらるべきものである。

即ち之が爲には宜しく過去の生産狀態の歩みに對し再檢討を加へ或は農業經營上正しく合理的に土地勞力が利用されてあるか、或は作物の配分上に關し勞力が適當に消化せられつゝあるか、或は自給經濟擴充の部面に於て欠くる處はないか等少なくとも過去の生産奬勵の上に再檢討を加へ誤りなき認識を以て最も合理的に小麥作の改善奬勵に當るべきである。

勿論將來外麥其他の關係を考慮し品種の改良、優良品種の普及、品質の改善、粒質の統制等生産技術の改良に或は生産費の方面に一段の研究を必要とするも更に進んで今後の對策として一層重要性を痛感するは生産物處理としての販賣統制の關係である。

殊に販賣統制の如何は直接農家の利益增進に反映し小麥作の安定消長にも至大の關係あるを以て可及的之が强化に努め價格の維持を圖るは最も重要なりと思惟するものである。

幸本縣の小麥販賣統制も近年著しく發達の機運に向ひ年次進展の趨勢にあるは喜びとする所なるも未だ先進地の夫れに比較すれば遙かに遜色なきを保し難い、殊に販賣組織の整備改善並に實際の成績に於ては遺憾の點なしとせぬ。

昨年度の實績は相當の成績を顯したるものゝ未だ產業組合及農會等の統制したる販賣數量は全數量に對し二割前後に過ぎざる狀況である。勿論未だ實行日尙淺く當業者の理解之に伴はざる關係なしとせざるも將來一層各種奬勵機關の協力に俟ち販賣組織の整備充實と共に販賣組合を中心としたる統制販賣の强化に努めたきものである。

特に此際農村經濟更生指導の第一線にある町村產業組合に於ては宜しく計畫的生産奬勵に對する最後の括りとして一層販賣改善に注意を喚起せられ「今年こそは」の意氣を以て統制販賣の强化に邁進し農家經濟の振興に寄與せられん事を切望に耐へぬものである。(六月二日記)

○心機一新自力の秋で
　經濟更生の種子を蒔く

○勵め開墾耕せ荒地
　金の茶釜も鍬の先

◆更生運動は……

産業組合の擴充强化から

櫻田村　若林光治

人の和を圖りて天の時を待つ……時恰も昭和七年度本縣經濟更生村として指定せられたるが、當時經濟活動の中心となるべき本村産業組合は、二十五年の歴史を有する甲組合と十年の經歴を有する乙組合……何れも其の特色を以て進展し來れる部落的組合の對立……之が解散……統一……創設に多大の困難、幾多の犧牲……而して之等組合を率ゆる長者の融合……既設組合員の納得……未設置部落民の敎育……之れ即ち年來村當事者の眞に苦心の懸案にして、本村生命線の消長に關する重大事項、蓋し事の尋常ならざるを知るべきである。

然るに更生運動の實効は一つに村の心臟部たる産業組合の擴充强化を圖るの重要性あるに鑑み、昭和八年四月全村一致計畫實行を神前に誓ふと同時に、之が整理統一を企圖し村委員會は實行指導督勵の完璧を期するため、分野を五部制となし、特に現組合長を經濟部長に推し、各幹部以下眞に一致協力、之が創立の總動員は全く眞摯熱烈實に其の活動振りは涙ぐましき程であつた。

農林省、中央會、縣當局並先進組合等より聘して一般村民に産業組合敎育の徹底に努むること前後六回、其他協議會部落講演又は懇談會等殆ど晝夜の別なく三〇餘回に亘りてこれを催した。漸く村民の諒解融合の途を講じ、玆に初めて既設組合員二四五名より、一躍全村區域に亘つて五二七名（農家戸數五七九）出資口數二、〇六六口を算し、全村一圓融合の第一步に入る。爾來、部落月例會に於ては組合長、技術員以下關係職員大擧出席して、組合の使命、出資の意義、貯金の必要、購買事業の成果、利用事業の將來等各般に亘つて熱と愛……そうして意氣とを傾注して組合員の啓蒙に必死の努力を致した。

斯くして幹部の倦ざる努力により、昭和十年度に於ける實績は貯金額六萬二千餘圓、貸付額二萬餘圓、販賣額二萬七千餘圓、購買額二萬三千餘圓に達し、本村更生上に稗益する所多大なるものあるを覺ゆ。

今や現組合長は農會長をも兼務し生産經濟、敎育、社會の各般に對し良く産業組合と異体同心の姿を以て圓滑なる

事業の發展向上に努めつゝあれば、遞て櫻田の更生は期し得らるゝものと思ふ。

◎一は折れても五は折れぬ　元成公の矢のたとひ

畜産講座

農務課　L S K

本誌の創刊を機として畜産講座を開設し、農村の發展に幾分なりとも裨益し度いと云ふ考から毎月貴重な紙面をさいて頂くことに致しましたから、どうぞ充分に御利用下さい。

× ×

近年世界的經濟恐慌に依り産業界各方面に亘つて未曾有の行詰りを生じ之が打開策として所謂景氣振興策とか或は産業合理化とかの名稱の下にいろ〳〵と對策が講ぜられて來た。

就中農村の不況は特に甚しく之が救濟は最も重要な問題として論議されて居る。我國で農村救濟が叫ばれ初めてから既に久しい、併し乍ら農村の實情は果してどれだけ改善されたであらうか。

『農村は果して將來人々の努力に依つて、これまで考へられなかつた樣な改善の方向にぐん〳〵進んで行くであらうか、それともまた窮乏と沈滯との間を永久に去來するのみで何時までも其の彼岸に達し得ないのではなからうか』

× ×

併乍ら吾々は徒に如斯悲觀說に惑はされてはならない。吾々が世界に誇る大和魂の威力を發揮するのは單に戰時の我等が利益も不利益も　心一つの共同心

◎櫻田に共同一致の種を蒔　誠と勉を肥として

富と愛との花咲かせ　稔る樂土を造りたい

みに限らない。平和の際欵を握るの時に於て更に其必要があるのである。

「窮すれば通ず」と云ふ。何とか打開の道は自然に見出されるであらう。艱難は悲觀的な見方のものに取つては絶望の因になるが反撥力のあるものに取つては「艱難汝を玉にす」で今日の困窮は明日の發展の基である。此際尚一段の努力を續け改善の實を收めねばならない。農村の發達は各農家の更生如何に懸つてゐる。而して農家の更生には國家社會の施設に俟つべき農家の環境の改善と農家自らが實行すべき經營の改善と二つの重要なる方面に分けて考へられる。勿論兩者相俟つて始めて充分なる效果をあげ得られるのであるが何と云ふても經營の改善が根本であり。農業の經營に就ては生產方面と共に販賣方面に就ても充分に考慮せねばならないと思ふのである。

× ×

農業の經營改善方法は多種多樣である。有畜農業を唱へ或は多角形農業又は農村の工業化を呼ぶもの等色々あるが要は農家の自然的、社會的、個人的環境に對する適否と之が運用如何に俟つものであつて決して一概に可否を定めるわけには行かない。故に各農家は其の環境に應じて適當な經營法を自ら工夫する熱意と努力が最も大切である。

× ×

畜產の配合に依る農業經營の改善は其の改善策として最も普偏性に富み且效果的である。最近有畜農業の普偏化は急速に進み、その提唱以來未だ日淺きに拘らず其效果顯面に現はれ山間僻地からも狂んに家畜家禽の元氣な鳴聲が聞こえ、畜產物は日本の隅々から市場に向つてどし〳〵出荷される樣になつて來た。この畜產の發達を瓚緖の不安なく順調に伸長せしむることは我々の念願である。若しも今日の如き發展が順調に進むならば農家經濟を豊にし農村の明朗さは年と共に增加するであらう。

一、有畜農業

農業は土地に植物及動物の生產機能を働かして生產を擧げる產業であるから當然家畜は其の一要素として含まれてゐるのであるが從來吾國の農業は耕種養蠶に偏し、家畜は耕種農業の補助手段として畜力を利用する目的で飼養されて居たに過ぎない狀態であつた。これは我國民生活が古來畜產物と殆んど關係を持たなかつた爲である。所が明治維新以來西洋の文物と接觸するに至り、國民生活樣式の變

遷に伴ひ畜產物の需要は逐年增加して國民の衣食住其の他の資料として重きをなすに至つた。畜產物の需要增加に應じて畜產も亦最近十數年間に大なる躍進を遂げてゐる。而して我國情は更に大なる畜產の發展を要求してゐるが、我國は土地狹隘で外國の樣な主畜農業的の經營では到底經濟的に畜產を進展せしむることが困難な事情にある。

農家の經濟更生と關聯して農業經營に付調査した結果に依れば耕種養蠶を主とする經營には勞力の配分上、或は農場殘滓物利用の見地から種々の欠陷が指摘されてゐる。而して畜產の按配により之等の欠陷を是正し得る場合が非常に多い。有畜農業の奬勵はこの点から出發してゐるもので農業經營全體を有利に導くことを目標とし併せて畜產の發達を企圖するものである。

× ×

有畜農業の經營と云ふても徒らに家畜を入れて經營を複雜にするのが目的ではなくて、經營改善に必要な最少限度の家畜を働かして最大の效果を收めるのが、其の要領である。

之れが爲には先づ家畜、家禽の性能を正しく認識すると共に畜產技術を充分に辨へねば其の運用で失敗を來し到底滿足な有畜農業の成果は望み難いことになる。これらの事柄に就ては各家畜に就て順次に述べることゝして有畜農業經營の組立てに必要な經營要素の釣合に就て考へて見よう。

有畜農業の成果を擧げるには家畜の種類、數量は經營全體から見た環境と諸要素との釣合が最も大切である。先づ第一に考なければならないことは飼料であるが自給飼料資源を良く調査して之を充分に利用出來る樣に計畫を樹てることが特に重要な事柄である。經濟的見地から云へば常に飼料の自給に努めることが必要だが自給のみを固守して家畜の生產機能を無視してはならない。一般に粗飼料は必ず自給せねばならないが、濃厚飼料は家畜の經濟的能力を發揮させるに必要な量は購入しても、是非給與する必要がある。

飼料と同時に肥料需給の關係を考へ各種作物と地味に就て自給肥料の所要量を算定して畜產の量を加減せねばならない。

○清く記した我家の日記

家のためだよ、村のため

指定町村を訪れて

北足立郡（昭和七年度）

大和薯の形狀の如く南北に細長い、北足立郡は地勢と云ひ、交通の便と云ひ、全く凡てが地理的に惠れてゐる。川口と浦和市とが獨立して、町村數は五九に減じたが、まだ其の數がなか〳〵多いから郡農會も實際指導に當つては並ならぬ骨折りがある。而し經濟狀態は全般的に眺めて、何れの地方も先づ比較的宜しいと申して差支へない。それだけに指定村外の農家は更生運動に對する認識と熱意とがどうかと思はれる。次に昭和七年度指定村が如何なる實を結びつゝあるか、其の概要を略述して見よう。

トマトで有名な…　石戸村

高崎線北本宿驛から二粁、農耕に惠れた純農村である。村の產業振興については自力更生運動の號令が下る前から中堅青年を網羅する農友會を組織して農業の改善を斷行せるため、今や其の實績は他に誇るべきものが尠くない、殊に養蠶不況から桑園を茶園に轉換し四十町歩の增殖を目指して製茶の合理化を圖るため、昭和十年五月農林省指定の共同製茶場を建設した、又經濟方面の役割を擔當する產業組合は信、販、購の各事業共頓に其の實績を擧げてゐる。今後本村は現在二五の農事組合を母體として實行組織を完備し協心一致統制の下に計畫實行に邁進するに於ては眞に目覺しき更生振りを示すものと思ふ。

農村敎育に熱心な…　宮原村

仲仙道の國道が南北に中央を貫通し、全く地理的條件に惠れたる宮原村は、殆ど郡の中部に位する市街地近接の農村である。この村も夙に農事改良を企圖して、村內十一の農家組合を母體として積極的に改善實行に漸進して來たが、計畫の實行に入りてからは、其の分野を擔當する各種團體の實績は之を特筆すべきものが尠くない。

農會の生產計畫に伴ふ加工事業や、產業組合の擴充事業等は目覺しき進步を示してゐる。又昨年十月竣功した青年會館建設の暁には男女青年團員の涙ぐましき奮鬪の蹟が窺はれる。又村民の敎化に對しては學校が中心となつて實行指導に當て居るが、殊に小學校の農村敎育は模範農家の姿を其のまゝ取り入れて全校職員、兒童協力の下に施設經營をなす所に實際敎育の眞價があると思ふ。

校舍、校地の利用や、農場經營の實際等は全く他に誇るべきものがある。

植木の產地…　安行村

苗木類や、切花類の產地として、天下に知られた安行村は、天惠の沃土と、帝都を背景とする所に今日の如く園藝業の發達を導いた原因がある。大小丘陵起伏し又は傾斜し或は水田地帶の展開するなど樣々な地勢にあるから村內農業の型態は稻作地帶、蔬菜地帶、觀賞樹、苗木地帶等が地域的に區分される。從て村民の氣風も其の業態に伴て多少の差異がある。それだけに部落計畫實行指導に當て幹部の苦心努力を見逃してはならぬ。

昨年敎化指定村となつてから特に村民の敎化を重点として、報德の敎義を鼓吹し毎月部落常會を開いて精神更生の徹底を圖る事に努めてゐる。又經濟部面に於ても、產業組合擴充目標に向て相當な進度を示して居るが、今後一層計畫實行上の細胞組織の完備と村中央部の連絡指導統制の下に躍進するに於ては充分な實行を收める事が出來ると思ふ。

武藏野の高臺…　大和田町

大東京の近郊農業地である大和田町は僅かの市街地を除く外、大部分は農村部落である。

一戶當りの平均耕地が二町步近いことは、本縣の現狀から見て珍しい方である。その上經營が自由式であり、生產物の資金化が容易であるから農家のふところ具合は彈力性があると云てよい。生產物は麥と蔬菜に努力が集注されてゐるが、更生計畫の實行に依て澤庵漬はこの町の特產品となつた。之が生產統制の下に昨年度に於ては一萬樽以上を共同販賣した。又昨年實現を見た、產業組合利用場に於ける加工事業の開始に依て農家の自給食糧の範圍が擴大され更生上に多大の効果を收めてゐる。町の區域は非常に廣いが、今後一元統制の下に各農家組合を母體として連絡實行に邁進するに於ては輝かしき更生の實を擧げることができると思ふ。

雜錄

◎經濟更生町村
幹部協議會開催

爽かなる初夏の陽光に若葉薫る五月九日浦和市埼玉會館に於て、本縣指定經濟更生町村幹部協議會が開催された、會するもの一五二ケ町村何れも我が村の更生に眞劍味を以て日頃奮闘する町村長、農會長、產業組合長、技術員、其他の幹部約六百餘名は定刻前會場殆ど餘地なき迄の盛況を見た。

開會の振鈴を合圖に中川農務課長の開會の辭に次ぎ、遠山經濟部長座長となり左の順序に依り會議は行はれた。

諮問事項

一、經濟更生計畫ノ實行ニ對シ農家各戶ニ充分ナル認識ヲ與ヘ之ニ邁進セシムル方法如何

指示事項

一、農民精神作興ニ關スル件

二、經濟更生計畫實行機關整備ニ關スル件

三、部落實行主体ノ事業ニ關スル件

四、部落計畫活用ニ關スル件

五、個人計畫樹立ノ方法並ニ之カ運用ニ關スル件

六、日記々帳ノ指導ト之カ利用ニ關スル件

諮問事項に就ては各部農會に於て更生町村の意見を取纒め五月末日迄に縣に報告する事に申合せた。

◎本縣農村更生協會の設立

本縣指定經濟更生町村幹部協議會は未だ曾てなき會合である爲め、この絶好の機會に本縣農村更生協會設立に付諮つた所滿場一致の賛成を得て創立に決し直ちに會則、經費、豫算、役職員等を別記の如く定めて大いに經濟更生の側面的運動に向て躍進することとなつた。

埼玉縣農村更生協會
設立趣意書

我が國の農村は經濟上に於ても思想上に於ても又健全なる國民の搖籃の地としても實に重要なる國家構成の基本をなすものであります。而して今や內外非常の時期に直面し國民協力一致克くこの大事業に成功すると否とは正に國家百年の將來を左右するものと云はねばなりません。

然しながら、農村の更生は其の關係する村の衰退は世界的現象となり、我が國に於ても艦近の狀勢は眞に憂慮すべき狀態に陷つて居ります。

於茲國に於ても縣に於ても農村疲弊打開策として各般の施設を實施し殊に昭和七年度以來各種應急臨時の匡救策と共に恒久根本的の對策として、農民の自力による更生運動が唱導せらるるに至つたものであります。

申す迄でもなく農村が眞に永遠に亘つて其の振興を企圖せんには政府の諸施設素より緊要なりと雖之と相俟つて農村民が自奮更生克く隣保共助の美風を作興し、尊農愛鄉の精神を基調として經濟並に生活の根底に横はれる欠陷を改めて根本的の樹て直しを斷行しなくてはならないと確信するのであります。

居る許りでなく、個々の農村の內部的事情のみによつて決定せられずして多數農村相互の關係或は更に進んで都會對農村の諸關係によつて動かさるる處大でありますので勢ひ他よりの批判指導等を受くることがありませんと往々にして岐路に迷ふの恐れがないと云はれないのであります。

玆に國及縣等の指導が各分野に於て加へられて居る次第でありますけれども農村更生の部門中には官廳の指導のみにては不充分なる點もあり、又農村民に直接接觸し忌憚なき意見を交換し自由なる質問に答ふる等主として側面的立場に於て、これに働きかけ以て經濟更生運動を擴充强化すべき團体の必要切なるものがあるのであります。

此の必要を痛感し各更生町村を一丸とせる團体を組織し更生運動の今日迄の歩みに更に一段の拍車をかけ以て此の事業をして有終の美を敍めしめんとするものであります。

埼玉縣農村更生協會々則

第一條　本會ハ埼玉縣農村更生協會ト稱シ

第二條　本會ハ經濟更生運動ヲ擴充强化シ以テ計畫ノ完成實行ノ確保ヲ圖リ健全ナル農山村ヲ建設スルヲ以テ目的トス

第三條　本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一　會報其ノ他印刷物ノ刊行頒布

二　活動寫眞映寫會ノ開催

三　質疑應答並ニ指導

四　座談會、講習講話會、展覽會等ノ開催

五　優良事績ノ紹介並ニ表彰

六　其ノ他必要ナル事業

第四條　本會ノ會員ハ縣指定經濟更生町村及本會ノ趣旨ニ賛同スルモノトス

第五條　本會ニ左ノ役職員ヲ置ク

一　會長　一名

二　副會長　三名

三　理事　若干名

四　幹事　若干名

五　書記　若干名

第六條　會長ハ本縣經濟部長ノ職ニ在ルモノヲ推ス

副會長ハ本縣農務課長、縣農會長及縣信用販賣購買利用組合聯合會長ノ職ニ在ルモノヲ推ス

理事ハ會長ノ互選トス

幹事及書記ハ會長之ヲ委囑ス

第七條　會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ農務課長ノ職ニ在ル者先ツ之ヲ代理ス

幹事及書記ハ會長ノ命ヲ承ケ會務ニ從事ス

第八條　理事ノ任期ハ三箇年トス

補缺ニ依リ就任シタル理事ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

理事ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就任スル迄其ノ職務ヲ行フモノトス

第九條　本會ハ理事會ノ決議ニ依リ顧問、相談役ヲ置クコトヲ得

第十條　本會々議ハ理事及總會ノ二種トス

第十一條　理事會ハ理事ヲ以テ組織シ必要アルトキ會長之ヲ招集ス

第十二條　理事會ニ於テ議決スベキ事項左ノ如シ

一　會則ノ變更

二　豫算決算及事業報告ノ議決認定

三　其ノ他重要ナル事項

第十三條　總會ハ毎年一回之ヲ開ク

第十四條　總會ニ於テハ會務ノ報告ヲナシ其他特ニ必要ト認ムル事項ヲ決議ス

第十五條　總會及理事會ノ議長ハ會長之ニ當ル

第十六條　會議ノ議決ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニ依ル

第十七條　本會ノ解散ハ會員半數以上出席スルニ非ザレバ議決スルコトヲ得ズ

第十八條　本會ノ經費ハ會費補助金寄附金及雜收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十九條　本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月末日ニ終ルモノトス

埼玉縣農村更生協會役職員

幹事

會長　遠山信一郎

副會長　中川金正

石坂養平

森田熊吉

理事　石井雄之助

中山吉長

市村高彦

浅見保太郎

栗原侃一

吉野長治

宮澤良吾

福田唯一

須賀丈太郎

内野美好

河田十郎三

内田喜一

齋藤重雄

高澤保雄

澁谷塊一

井田門平

山崎平内

岩井八郎

柳川久雄

橋本一朗

加藤巖雄

前川純三

藤田周造

田直太

伴四郎

水谷庄五郎

内田澄壽

近藤三術

何木重治

高澤五郎

篠原虎三郎

和田敏政

松本芳道

高井二郎

澁谷周藏

田中平造

小高芙一

半田巽

佐藤良一

清水眞吉

新井濱翁

松本岩太郎

船川亮

書記　櫻井仁平

栗原昌一

代藤作

宮崎來助

横山吾

大野穩次

四方田杢次郎

吉田重雄

杉谷保

顧問　川西實三

相談役　加藤睦之介

市村高彦

鈴木子之助

宮澤良吾

須賀丈太郎

石坂養平

齋藤重雄

渡邊多傳司

白石貞二

畑義三

市村高彦

小峰寛一郎

町田嘉之助

高橋守平

坂田清兵衛

村上義之助

川島一郎

染谷保次郎

農民講堂を建設した

南埼玉郡日勝村

農林省指導の農村計畫で有名な日勝村では經費一千餘圓を投じて本年三月農民講堂の建設に着手したが五月中旬漸く之が竣功を見た、總建坪數二八坪、內八坪は農會事務所に充て二〇坪は土間にて各種の會合其他講習講話等に便するの外生産物の集荷荷造等に至る迄之を利用する計畫なれば、今後村更生上に齎す効果は相當大なるものと思ふ。

（編者）

今年は入梅の様な氣候が例年になく長いので、農家は蓑蛍から麥の取入れ、稻の仕付けへと、目まぐるしい日を送つて居るがさて、これから眞夏の努力を終て秋の待望に充ち大いに奮闘せねばならぬ時期です。

○　○　○

こゝに「更生埼玉」の第一號が漸く誕生しました。まだ生れた許りの赤坊で皆様の御期待に背く様な不備な点が多からうと思ひますが皆さんの御力添へに依てそれらの欠点も除かれスク〳〵と立派に成長して行く様にしたいと思ひます。

○　○　○

更生途上に躍進して居る、本縣指定農山村の赤裸々な姿を順次御照會いたしたいと思ひますが紙數に限りあるので可成く簡潔に其の特色だけを記して、お互の參考に供したいと思ひます。

○　○　○

「更生埼玉」はお互ひの機關誌であるから充分滿足の出來る様に編輯して行きたいと思ひます。就いてはいろ〳〵更生上の好事例を御知らせ願ひます。尙ほこの方面に關する論說、研究、文藝、隨筆等の投稿も歡迎致しますから毎月十日迄に農務課更生係へ御届け下さい。

⊙投稿歡迎

一、論說　農村問題又は農山村更生に關する論說及時評。

二、研究　農山村更生に關する調査研究又は考察等。

三、實用記事　飼育、栽培、加工、調製、經營、事例、其他農山村に於ける本副業に關する實際的記事。

四、紹介　各地に於ける農山村更生事例、中心人物、團体等の紹介。

五、行事　各地に於ける更生に關する講習會、講演會、座談會、其他催物又は諸行事の概要豫報及狀況詳報等。

六、農村雜記　農村又は農業に關する雜文感想、告白、同志への激文、本誌讀後評等。

七、村の便り　村の出來事、自慢話、感激實話、傳說、奇習珍談等。

八、農村文藝　漫畫、漫文、笑話、紀行文等。

九、其の他　本誌に掲載し得べきものならば何でも結構です。

○原稿締切は毎月十日であります但し誌上掲出は編輯の都合上遲れることもあります。

○原稿文字はなるべく楷書で句讀点をつけられたく、鉛筆書は御斷りいたします。

○投稿は埼玉縣農務課内農村更生協會宛御送附を願ひます。

○原稿の取捨添削は本會に一任ありたく、採否の如何を問はず原稿は御返し致しません。

○本誌に掲載した原稿に對しては掲出誌を贈呈致します。

更生埼玉（毎月一回發行）

定價　一部　郵稅共　金五錢
　　一ヶ年分　郵稅共　金五拾錢

注意　誌代は凡て前金により申込み下さい。申込みの方は何月號より何月號までと必ず明記して下さい。

昭和十一年七月七日印刷
昭和十一年七月十日發行

發賣所　埼玉縣農村更生協會

埼玉縣浦和市一一〇

編輯兼發行人　内田澄壽

印刷人　群馬縣高崎市九藏町一〇三　吉田吉次郎

印刷所　群馬縣高崎市九藏町一〇三　精眞社印刷所

發行所　埼玉縣農村更生協會
浦和市埼玉縣廳農務課内
（電話浦和三五〇一―三五五）

經營の計畫化!!!

これは何處でも、又誰しも唱ふる所でありますが、さてこれをどうしたら、簡易に明瞭に、表はすかと云ふことになると、仲々容易に手がつかないので、これまで思ひながら捨てられてゐたのであります。

所が本縣では、他府縣に先達つてこれを考案しまして、大方の利用を奬めました所、非常な賞讃を得ております。

只今では盛んに、他府縣からの照會等に忙殺されてゐる次第で如何に立案の樣式が、農家の希望に合つてゐるかゞ分ります。

而も値段は僅かに一錢で、紙質も上等、印刷もスマートであります。

昭和十二年には一層の御利用を願ひます。

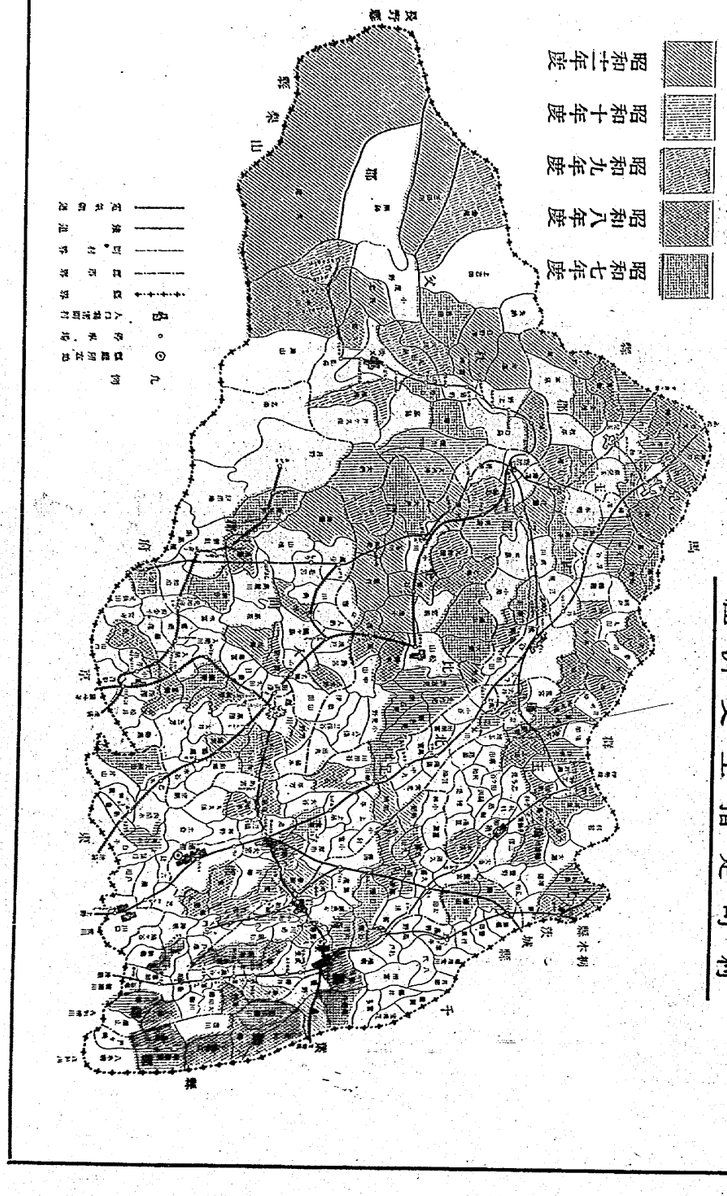
農家經濟更生の羅針盤

我家の經營計畫と實績

一部一錢

印刷の御用命は……

高崎市九藏町一〇三
精眞社印刷所
電話四三〇　振替五五八五二
印刷工場　高崎市末廣町三二四


昭和十年度
昭和十年度
昭和九年度
昭和八年度
昭和七年度
経済更生指定町村